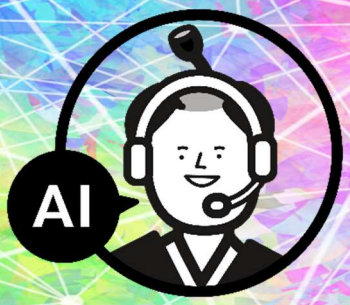
超高齢社会に向けた分野横断研究会
NEWS LETTER Vol. 4
発行：2021 年 5 月 発行者：横浜市立大学 都市社会文化研究科 陳 礼美研究室　中井 紬



超高齢社会での知識と体験を共有する人工知能の役割とは？
西村 拓一先生 （産業技術総合研究所 人間拡張研究センター 横浜市立大学 都市社会文化研究科 客員教授）

4 月 22 日 Zoom にて、第 4 回目の研究会が開催されました。今回は西村先生に、人間の進化を助ける「AI くん」を作る研究についてお話しいただきました！具体的には、介護士をはじめとする色々な専門家の知識を整理（統合化）し、知識同士の矛盾や欠けている情報に「つっこみ」を入れることで、人間にさらなる方法を考えさせる AI を作る、ということでした。AI が解決策を出すのではなく、人間力を高められるような経験や体験を共有するものを作っていけたら、とのことで、将来的には、新人の育成のみならず、質の高い介護を広めることにも役立てていきたい、とお話しされていました。現在は、有名な介護施設とも連携をし、ベテランの方々と研究所の方々が対話をして、知識を作り上げている段階だそうです！

さらに今回は、グループに分かれてディスカッションをする時間がありました。皆様からは、利用者の方の安全を守るために徘徊を止めるなどしているが、AI が持つ知識を用いることで、「ここまでなら大丈夫」という支援の許容範囲ができるのではないか、という意見や、人間の感情や知覚は人によってグラデーションがあるため、それを AI に実装するのは難しいのではないか、という疑問が出ました。

第 4 回の研究会は、北海道から九州までの日本全国から、様々な分野でご活躍されているたくさんの方々にご参加いただきました！！引き続き、よろしくお願いいたします！

++*+